平成28年度事務事業一覧表　　課名：生涯学習課 郷土資料館　　第1号様式

事業番号	事業名	内　容	対象外項目番号
1	郷土資料館運営事務事業	郷土資料館運営、運営委員会の開催	②
2	郷土資料館維持管理事業	郷土資料館の維持管理	－
3	学芸活動事業	資料収集・整理、調査・研究等の学芸活動	－
4	教育普及・企画展事業	教育普及活動及び企画展の開催	－
5	旧吉田茂邸維持管理事業	旧吉田茂邸の維持管理	⑤
6	郷土資料館リニューアル事業	常設展示リニューアルの実施	③
7	郷土資料館施設整備事業	施設・設備の整備	③

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	郷土資料館維持管理事業	担当課名	生涯学習課
		係名	郷土資料館
細分事業名	郷土資料館維持管理事業	事業番号	2
		事業開始年度	昭和63年度

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館の設置、管理等に関する条例施行規則			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	安全で快適に利用できるように環境整備を行う。			
対象 （誰を・何を）	来館者を対象に、快適な学習環境を提供する。			
内容	年間を通した敷地及び施設の維持管理。 安全で快適に利用できる環境づくり。			
執行体制	□ 町職員実施	■ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	12,698	11,280	10,989
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	12,698	11,280	10,989
	職員人数（概算職員数）	人	0.65	0.60	0.55
	人 件 費 計　(b)	千円	2,155	2,233	3,021
	総事業費 (a)+(b)	千円	14,853	13,513	14,010

事業費内訳 Ｈ　28　年度	需用費　4,295千円、　役務費　98千円、　委託料　6,538千円、 使用料及び賃借料　58千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	利用者数	人	30,335	25,673	14,280
	②					
活動指標 （活動量）	①	開館日数	日	296	283	119
	②					
成果指標 （達成度等）	①	一日あたりの利用人数	人/日	102	91	120
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	町が設置、運営する施設であり、実施主体は妥当と考える。
	・実施手段は妥当か		□ 妥当　■ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	郷土資料館の維持管理に当たって、各種保守委託業務を業者に委託している。 業務内容から判断しておおむね妥当と判断される。
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている　■ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	予算範囲内で適正な施設管理を行っている。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	各種保守委託業務については、必要最小限の項目立てしか行っていないものと考える。
	・コストの削減等を図ったか		■ 図った　□ 図られていない　□ 図る余地は無い　□ その他
		理由	委託業務の仕様の見直しを行った。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	予算の範囲内で、施設を維持していくための保守管理は適正になされている。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

長期修繕計画に基づき設備の更新工事を行っていく必要がある。
空調設備の更新が必要だが、更新にあたって経費が嵩む。

② 平成28年度に着手する事項

トイレの改修工事を行う。

③ 平成29年度に着手する事項

長期修繕計画に基づき優先順位の高い修繕内容に着手する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月29日

長期修繕計画に基づき今後、空調設備の更新を進めていく予定だが、平成29年度は着手にあたっての調査、調整等の準備期間とする。修繕については、緊急性が高いものについて対応する。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	学芸活動事業	担当課名	生涯学習課
		係名	郷土資料館
細分事業名	学芸活動事業	事業番号	3
		事業開始年度	昭和63年度

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館の設置、管理等に関する条例施行規則			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	資料収集・整理を行い、研究成果をさまざまな活動に還元する。また、あらゆるレファレンスに対応できるようにデータを蓄積する。			
対象 （誰を・何を）	大磯町内外の利用者を対象に、地域の情報を発信する。			
内容	館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、考古・歴史・民俗・自然資料の資料収集、整理分類、調査研究等を行い、これらを展示の一部に還元するとともに、収蔵資料目録の作成や研究成果の一部を発表する。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	2,993	2,827	2,849
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	2,993	2,827	2,849
	職員人数（概算職員数）	人	1.30	1.10	0.60
	人 件 費 計　(b)	千円	4,828	4,737	2,848
	総事業費 (a)+(b)	千円	7,821	7,564	5,697

事業費内訳 Ｈ　28　年度	共済費　44千円、　賃金　2,621千円、　旅費　37千円、　需用費　147千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	収集資料	件	45	69	70
	②					
活動指標 （活動量）	①	執筆数	本	17	7	10
	②					
成果指標 （達成度等）	①	執筆数	本	17	7	10
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	学芸員資格を有する郷土資料館の職員、臨時職員が、考古、歴史、民俗、自然の資料に関する調査、研究を行っている。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	調査、研究活動を行い、活動成果をまとめた刊行物等の成果物をまとめている。
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている　■ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	現状の活動において、指標としている執筆数は旧吉田茂邸の再建事業と郷土資料館リニューアル事業の実施により業務が圧迫され減少したが、有意義な報告ができている。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	特別な経費を掛けず、予算内で成果をあげている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	必要最小限の経費しか予算に見込んでおらず、削減に該当する予算科目が見当たらない。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	郷土資料館のリニューアルに平行して、収蔵環境の整備を進めることができた。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

郷土資料館のリニューアルオープン、また、旧吉田茂邸の開館以降の事業展開を視野に入れた学芸活動を進める必要がある。

② 平成28年度に着手する事項

吉田茂に関する調査を進めるとともに、収蔵資料の整備を継続する。

③ 平成29年度に着手する事項

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に沿った各分野の調査・研究活動等を継続するとともに、収蔵資料の整備を継続する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月29日

収蔵資料の環境整備に重点を置き、整理作業を進めるとともに、館のテーマである「湘南の丘陵と海」に沿った各分野の調査・研究活動を充実させる。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	教育普及・企画展事業	担当課名	生涯学習課
		係名	郷土資料館
細分事業名	教育普及・企画展事業	事業番号	4
		事業開始年度	昭和63年度

1.総合計画上の位置づけ

柱	—	総合計画実施計画	
部門	—	認定番号	—
大施策	—	事業名	—
中施策	—		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館の設置、管理等に関する条例施行規則			
個別計画等	—			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	他の教育施設との連携、町民との協働による博物館活動を展開する。			
対象 （誰を・何を）	大磯町内外の利用者に対して、地域の情報を発信する。			
内容	町民との協働作業を意識し、ワークショップ形式の事業を実施する。 常設展示では取り扱っていない分野を補うとともに、更に深く掘り下げたテーマ展示を実施する。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	1,092	1,230	2,614
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	1,092	1,230	2,614
	職員人数（概算職員数）	人	0.28	0.75	0.90
	人 件 費 計　(b)	千円	3,784	3,812	4,272
	総事業費 (a)+(b)	千円	4,876	5,042	6,886

事業費内訳 Ｈ　28　年度	報償費　20千円、　旅費22千円、　需用費　1,614千円、 役務費　407千円、　委託料　540千円、　使用料及び賃借料　11千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	企画展入館者数	人	22,173	16,960	9,000
	②	講座参加者数	人	686	594	200
活動指標 （活動量）	①	企画展開催数	回	5	5	3
	②	講座回数	回	73	52	20
成果指標 （達成度等）	①	企画展1回当たりの入館者数	人/回	4,435	3,392	3,000
	②	1回当たりの講座参加者数	人/回	9	11	10

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	学芸員が中心となり、町民との協働で資料の調査や収蔵資料の整理を行っている。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	地域の情報を幅広く、且つ深く掘り下げる機会として、常設展示では取り扱っていないテーマに着目した企画展を開催するとともに、ワークショップを開催し、利用者や他施設との連携、協働による博物館活動を行っている。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	郷土資料館に蓄積されている情報を利用者や参加者と共有できる状況になっている。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	各種講座に携わる職員数を必要最少人数に絞って活動を進めている。
	・コストの削減等を図ったか		■ 図った　□ 図られていない　□ 図る余地は無い　□ その他
		理由	リニューアルオープンに当たり比較的規模の大きな企画展を計画したが、必要最小限の経費しか予算に見込んでいない。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	企画展やワークショップの実施は博物館の性格上、欠かせないものであり、現状の活動環境において充実した内容で実施できていると考える。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

多様化、高度化する利用者の学習要求に沿った展示、講座等の事業展開を進める必要がある。

② 平成28年度に着手する事項

郷土資料館リニューアルオープン記念企画展、旧吉田茂邸オープン記念企画展を開催する。

③ 平成29年度に着手する事項

リニューアルを契機に多く来場者が想定されるため、集客が見込める企画展を引き続き平成29年度も計画する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月29日

郷土資料館のリニューアル、旧吉田茂邸の一般公開により注目を集め、多くの来場者が見込めるため、話題性の高いテーマを選択し、企画展を開催する。